

2014年10月27日

摂南大学理工学部建築学科建築防災研究室

山形県立中央病院における事務職員対象の研修プログラム

日 時：2014年10月13日（月祝）（9：00～12：00）

場 所：山形県立中央病院 2階 講堂

参加者：山形県立中央病院職員（事務局次長・総務・情報企画・調達・施設・中央監視室・防災センター、院長・副院長・副看護部長等）36名

ファシリテータ：建築学科学生6名+大学院生（社会開発工学専攻）2名、山形県立中央病院DMAT隊員7名

なぜ災害拠点病院での事務系職員対象プログラムが必要か？

現在、多くの災害拠点病院では、災害時の実践的な訓練を実施しています。一方、これらの訓練は、多数傷病者発生に伴うトリアージや傷病者搬送に着目した医療者を中心とした内容が多く、病院施設の破損やライフラインの損傷等、病院内で発生する事柄をイメージし、どのように行動すべきかを考えられるような内容はあまりありません。また、施設破損など医療行為以外に関しては、病院に勤務する非医療者が率先して対応すべき項目となります。そこで、病院の事務系職員が災害時の院内状況をイメージし、対応を考えることができるような研修プログラム考案しました。このプログラム試作品は、病院での実証を必要としたため、山形県立中央病院での検証をお願いしました。

プログラム実施風景



最初に、東日本大震災時の病院被害について摂南大学の大学院生が説明しました。



ゲーム開始。次々と起こる事案にチームで対応を決めてカードに書き込みます。



病院内のエネルギー関係の部屋を図面上で確認します。「こんな部屋があったとは知らなかった！」との声が聞こえます。



院内の動線や給水車の停車位置、駐車場の区分け等を決定し図面に書き込みます。



各班ごとの結果を情報共有します。対応に必要となる人員数は？災害対策本部へ報告した事項、しなかった事項は？

プログラム実施結果

ゲーム開始直後は、ルールや目的について、理解にご苦労されている様子も見受けられました。しかし、ゲームが進むにつれて、身を乗り出して集中し、各班で協力してどのように対応するか議論しておられました。終了後、「3.11を思い出した」、「病院の事でも知らないことが多かった」など研修に対して前向きなコメントを多く頂きました。今後、頂いたご意見を基に、プログラムを改善し、多くの病院でお使いいただけるように修正したいと考えます。

今回のプログラムにご参加頂いた山形県立中央病院の皆様、ありがとうございました。また、プログラム実施にあたり、山形県立中央病院DMAT隊員の皆様には、ファシリテートを補佐頂いたほか、多大なるご協力を頂きました。皆様に心から感謝申し上げます。

お世話になったDMAT隊員の皆さんと記念撮影！

